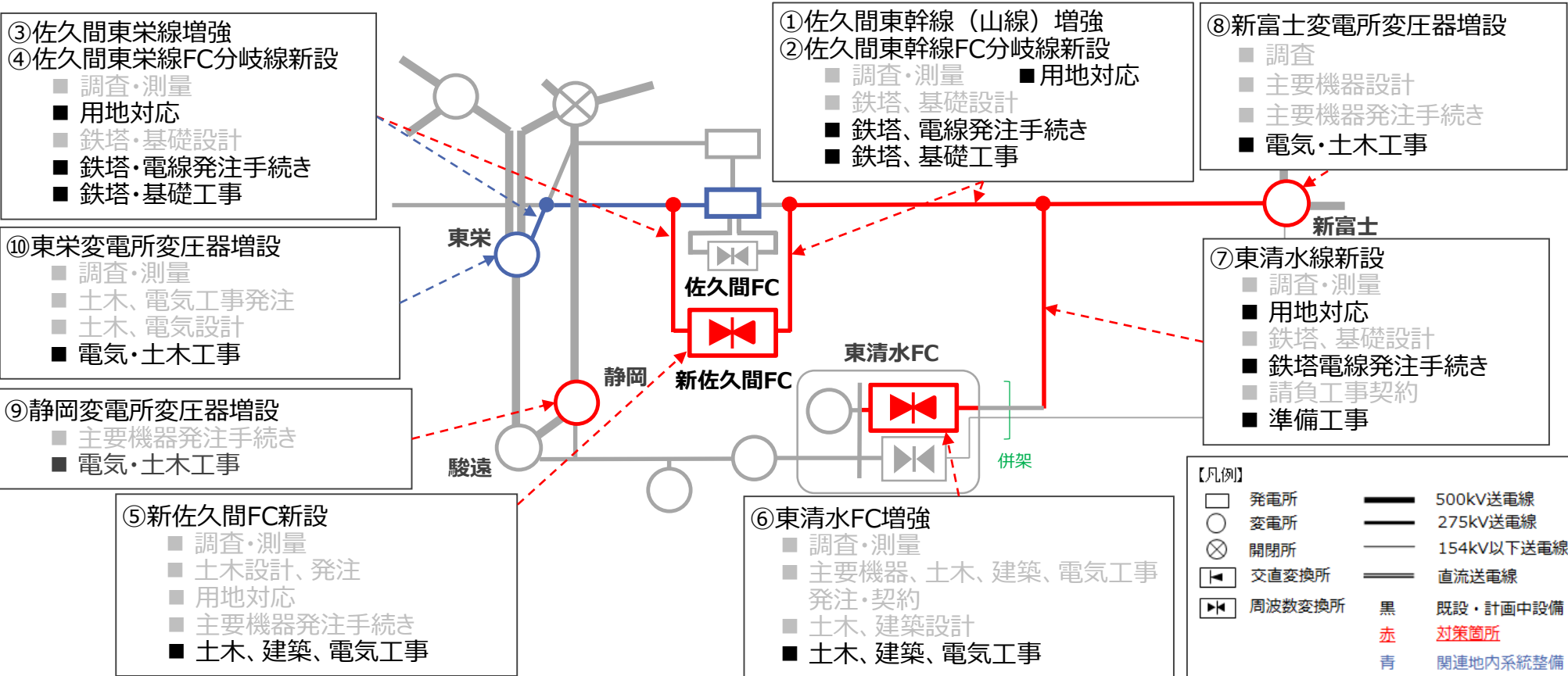


「東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画」 佐久間東幹線（山線）他増強工事の 工期遅延について（報告）

2025年 2月 28日
広域系統整備委員会
計画評価及び検証小委員会事務局

- 事業実施主体（東京PG、中部PG、電発NW）より送配電等業務指針第53条に基づき四半期（2024年12月末時点）の進捗状況が提出され、12月末時点において電発NWから①の工事の一部の工区について、運開期が遅延する見通しとの報告があった。
- 本内容について、第87回広域系統整備委員会(2月21日)に報告済み。



- ①の工事の一部の工区に関しては、2024年4月に発生した大雨被害に伴う追加対策工事や、保安林解除手続きに時間を要し、当初より着工時期が半年程度遅れる見通しであり、着工時期の遅れに伴う完了時期遅延を回避するため、増班やFC系統連系試験の精査などによる工程短縮について検討中であることを第85回広域系統整備委員会(2024年12月25日)にて報告済み。
- それ以降、電発NWにて、増班について一般送配電事業者との調整を行ったものの、必要数(18班)まで確保できなかったとのことであった。
- また、FC系統連系試験の精査について過去の類似工事をもとにすると21カ月かかる想定の工程を12カ月まで短縮して整備計画策定当初から計画しており、更なる工程短縮を検討しているが、抜本的な工程短縮は現時点では見込めていないとのことであった。
- 現時点では工期遵守は難しい状況であり、完了時期の遅延が避けられない見通しとの申し出であり、第87回広域系統整備委員会(2025年2月21日)に報告。
- 本事象については、至った経緯や要因、工期短縮の可能性の検討等について、次回以降の本委員会にて電発NWからご説明いただくとともに、本委員会のなかで詳細を確認していくこととする。

②－2 工事内容（工期）の検証

工事内容（工期）の検証については、広域系統整備の全体工期を決定する工事件名について、全体広域系統整備計画の工事完了時期から遅延がないかや、工期短縮に向けた取り組みがなされているか等について、以下のとおり、コスト等検証小委員会にて検証を行うこととしてはどうか。

➤ 検証項目・時期

1. 「2. コスト検証の概要（検証の時期）」に示す時点

②－1 工事内容（工事費）における検証にあわせて、その時点での該当工事件名の工期の見通しを確認する。

- ✓ 広域系統整備計画の工事完了時期に対しての変化内容・理由
- ✓ 工期短縮に向けた事業実施主体の取組・方策も確認
- ✓ 広域系統整備計画の工事完了時期から遅延する見通しとなった場合には、対応策の検証

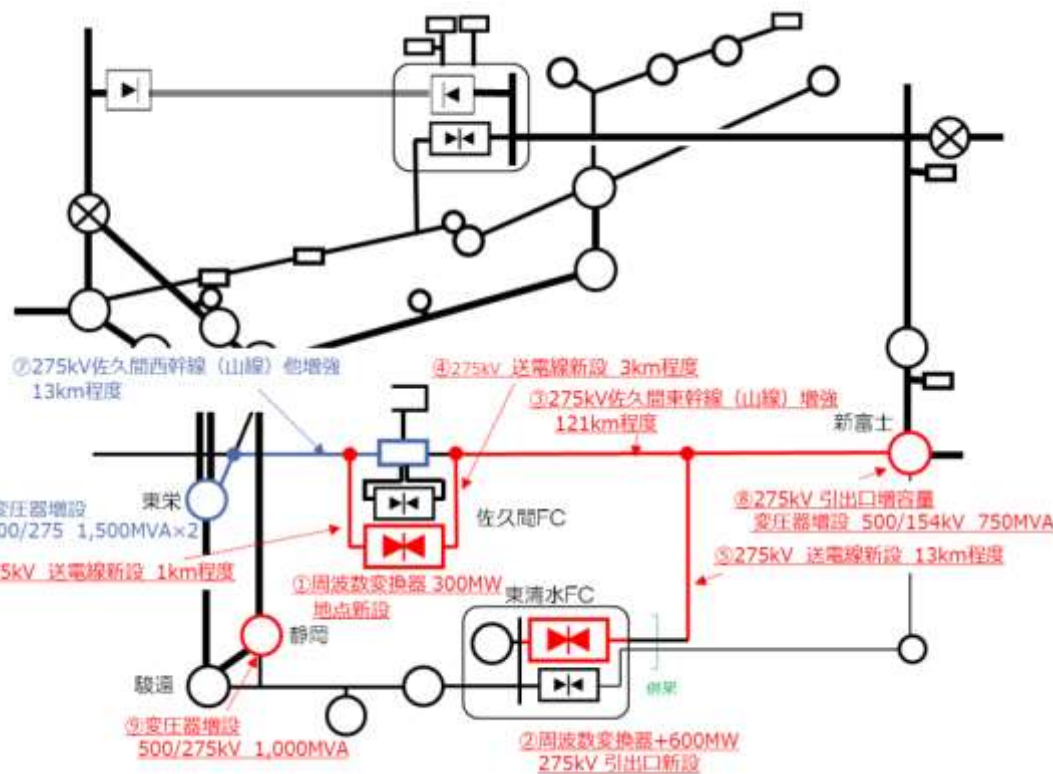
2. 広域系統整備計画の工事完了時期が遅延する見通しを把握した時点

- ✓ 遅延理由や対応策を速やかに検証をする。なお、事業実施主体は広域系統整備計画の工事完了時期から遅延する見通しを把握した時点で、本機関に速やかに報告を行う。

➤ 留意事項

- ✓ 上記の「検証項目・時期」とは別に、業務規程第62条に基づき、事業実施主体より定期的（四半期毎）に報告を受け進捗を確認する。
- ✓ 当該コスト等検証に係わらず、策定した広域系統整備計画の増強完了時期が遅延する場合は、業務規程第63条に基づき、広域系統整備委員会での検討が必要。

■ 東京中部間の連系設備を90万kW（210万kW→300万kW）増強する。



【凡例】

□ 発電所	— 500kV送電線
○ 変電所	— 275kV送電線
⊗ 開閉所	— 154kV以下送電線
◀ 交直変換所	— 直流送電線
▶ 周波数変換所	黒 既設・計画中設備
	赤 対策箇所
	青 関連地内系統整備

◆概算工事費：1,837億円

◆工事完了予定時期：2027年度末

◆事業実施主体：東京PG、中部PG、電発NW

個別工事件名	事業実施主体
① 佐久間周波数変換設備	電発NW
② 東清水周波数変換設備	中部PG
③ 275kV佐久間東幹線（山線）増強	電発NW
④ 275kV送電線新設（50Hz）	電発NW
⑤ 275kV東清水線新設	東京PG
⑥ 275kV送電線新設（60Hz）	電発NW
⑦ 275kV佐久間西幹線（山線）増強	電発NW
⑧ 新富士変電所増設	東電PG
⑨ 静岡変電所増設	中部PG
⑩ 東栄変電所増設	中部PG

